POWER EGG 3.0

POWER EGG 3.0
Office 365連携

2023年11月

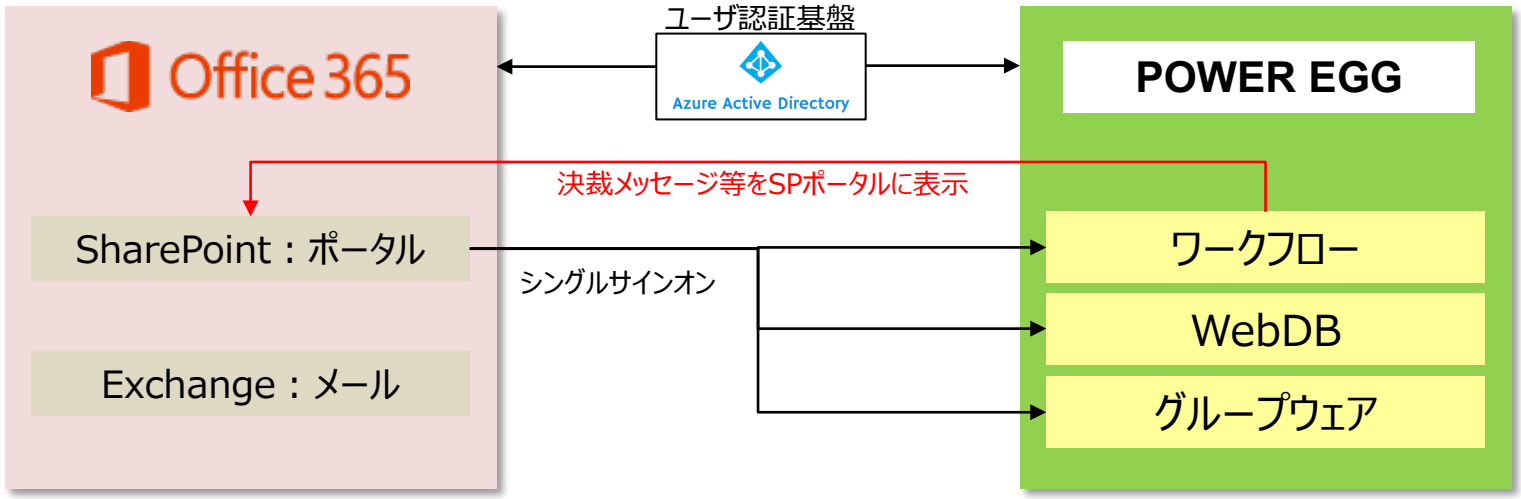
ディサークル株式会社

改版履歴

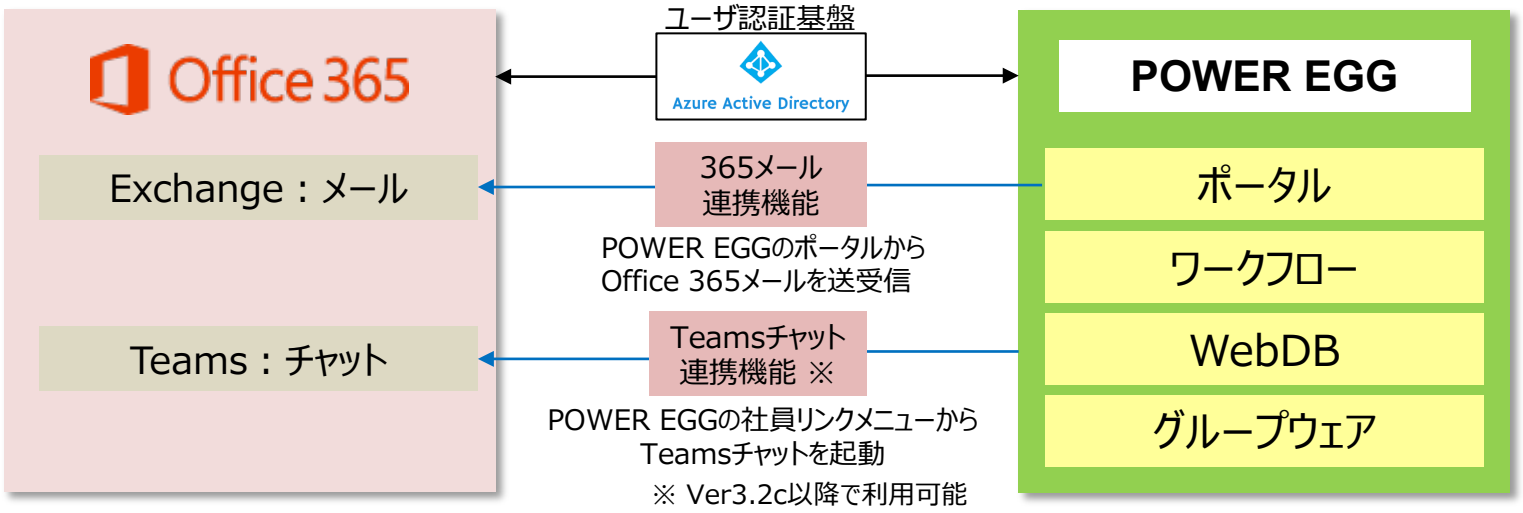
修正日・版	修正箇所・内容
2018/09/14 1.0版	初版 発行
2019/08/30 2.0版	Azure Active Directory管理センターのUI変更に対応
2020/06/17 3.0版	留意事項を追記
2020/11/12 4.0版	Teams連携機能に関する記述を追記、留意事項を追記
2020/11/26 5.0版	Teams連携機能はVer3.2c以降で利用できる旨を追記
2022/02/07 6.0版	Azure Active Directory管理センターのUI変更に対応 留意事項を追記
2023/01/12 7.0版	Azure Active Directory管理センターのUI変更に対応 シングルサインオンを行うURLに関するページを追加 留意事項を追記
2023/11/08 8.0版	Azure Active Directoryから Microsoft Entra IDへの名称変更、および管理センターのUI変更に対応 SharePoint 連携を使用する場合の設定について追記

連携概念図

■ Office 365利用ユーザ向け連携モデル：パターン①



■ POWER EGG利用ユーザ向け連携モデル：パターン②

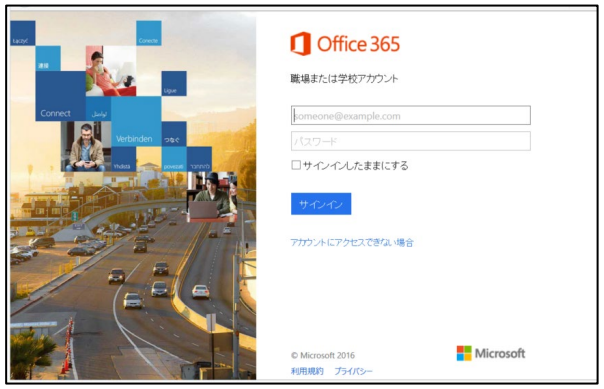


連携イメージ図①

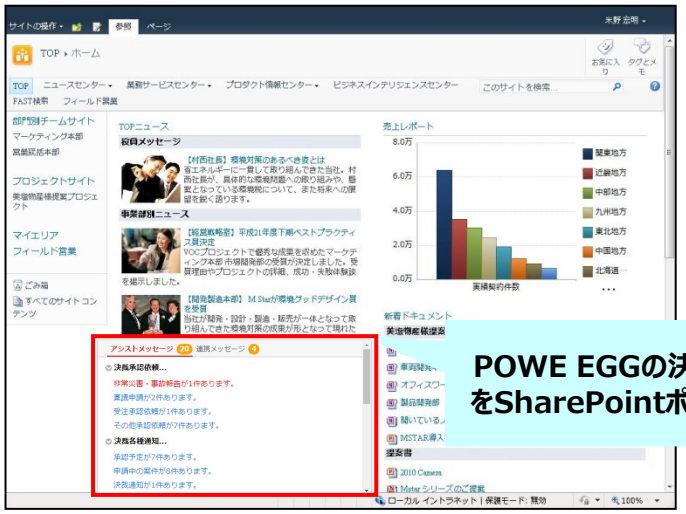
POWER EGG 3.0

パターン１：Office 365からPOWER EGGにシングルサインオン

①Office 365にログイン



②．SharePointにログインし、POWER EGGアシストメッセージを表示



②Office 365メニューからPOWER EGGを起動

③POWER EGGにシングルサインオンし、ナビビューを表示

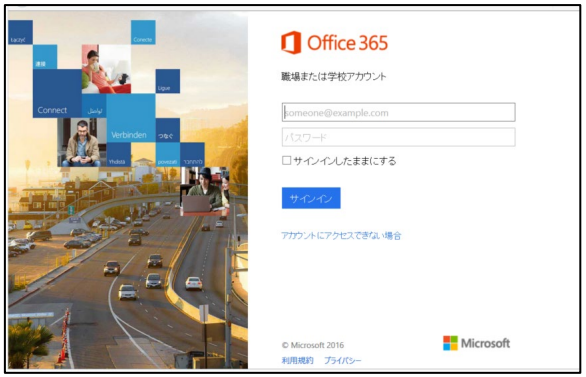
D-CIRCLE

連携イメージ図②

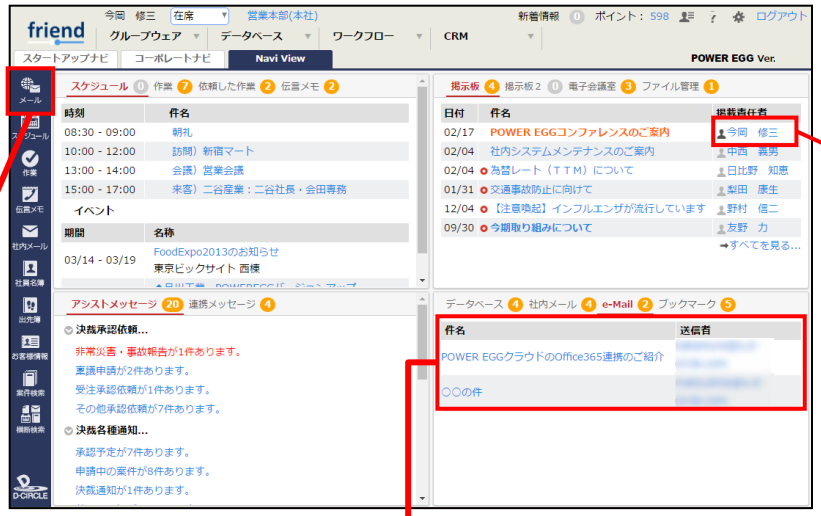
POWER EGG 3.0

パターン2：POWER EGGからOffice 365にシングルサインオン

①POWER EGGのログイン時、Office 365(Azure AD)のログイン画面を表示



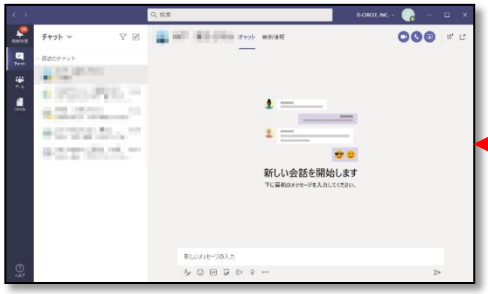
②ログイン後、ナビビューを表示



③ダイレクトボタンから
Office 365にシングルサインオン

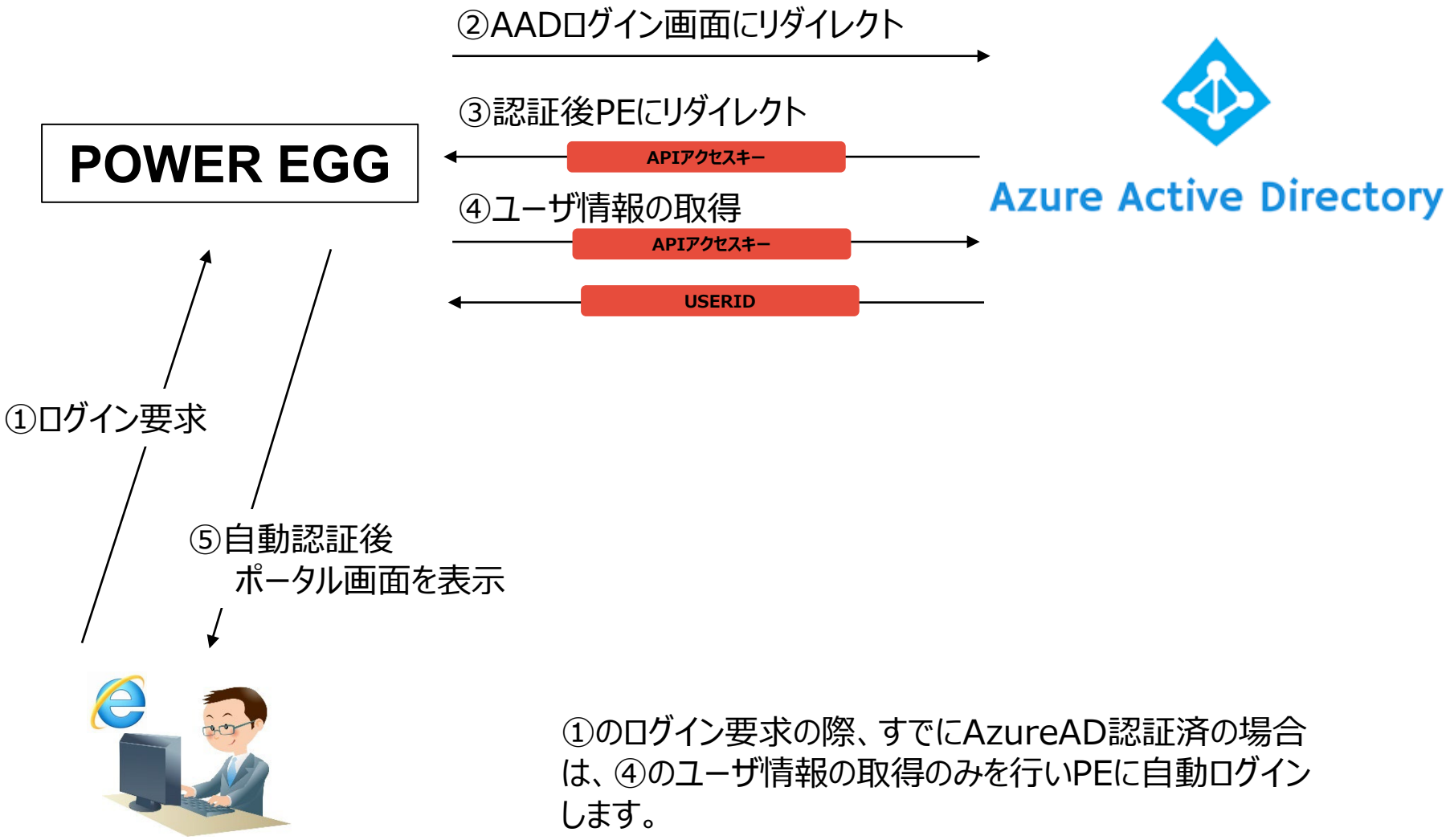
④ナビビューから
Office 365のメールを表示

⑤社員リンクメニューから
Teamsアプリを起動



D-CIRCLE

認証の流れ



①のログイン要求の際、すでにAzureAD認証済の場合は、④のユーザ情報の取得のみを行いPEに自動ログインします。

連携仕様

認証プロトコルには、OpenIDを利用しています。

Office 365のログインIDをPOWER　EGGの社員情報の「メモ１」にセットします。

例：　Office 365ログインID：imaoka@o.d-circle.com

↓

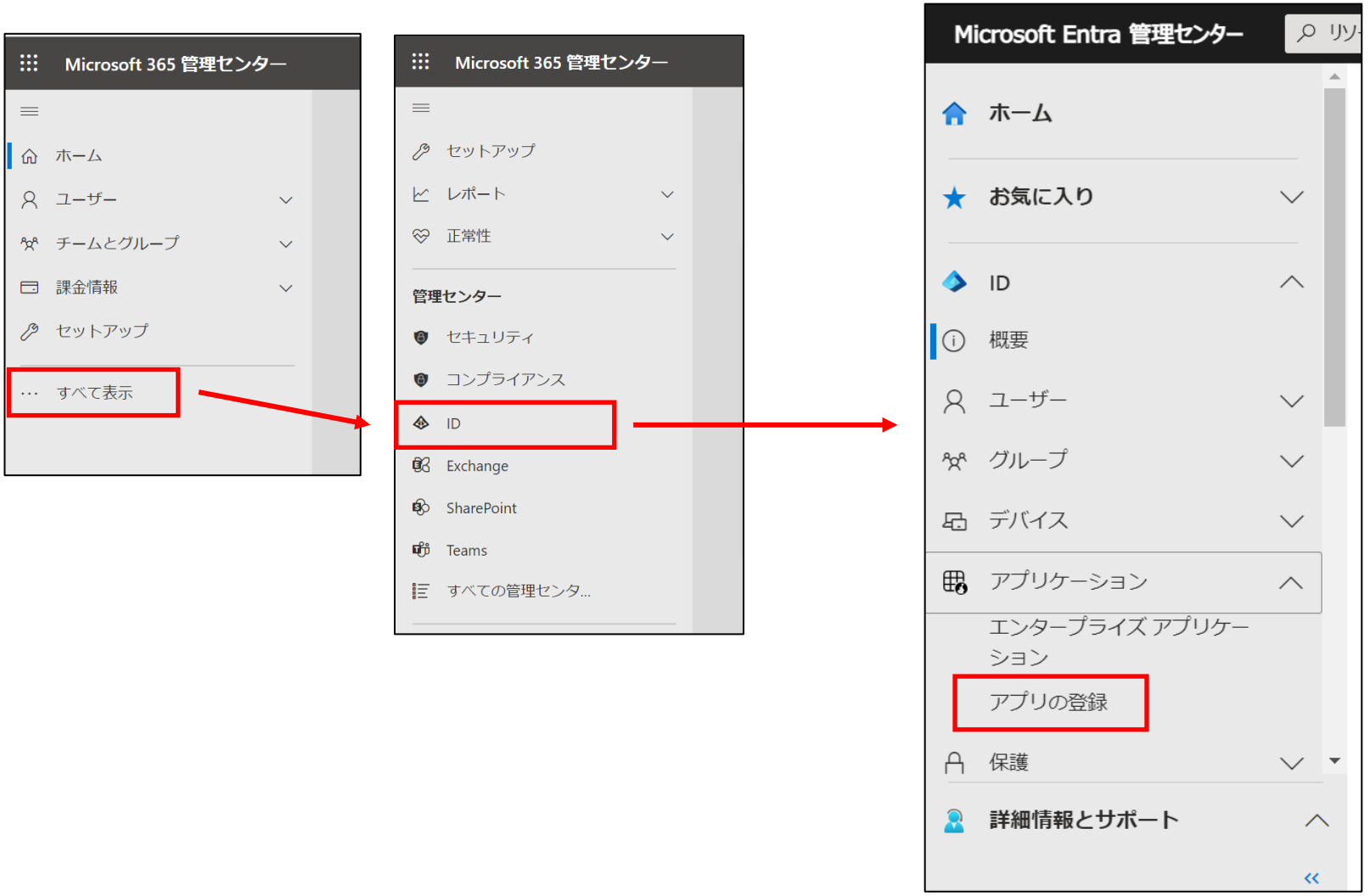
POWER EGG社員情報のメモ１：imaoka@o.d-circle.com

ユーザー、グループ等のAzure ADとの連携機能はありませんので、POWER EGGの組織情報（社員、部門等）はPOWER EGG側にあらかじめ登録しておく必要があります。

Azure ADへのPOWER EGGの登録

POWER EGG 3.0

Office 365にログインし、管理画面から「Microsoft Entra 管理センター」を開き、
「アプリケーション」の中の「アプリの登録」を開きます。

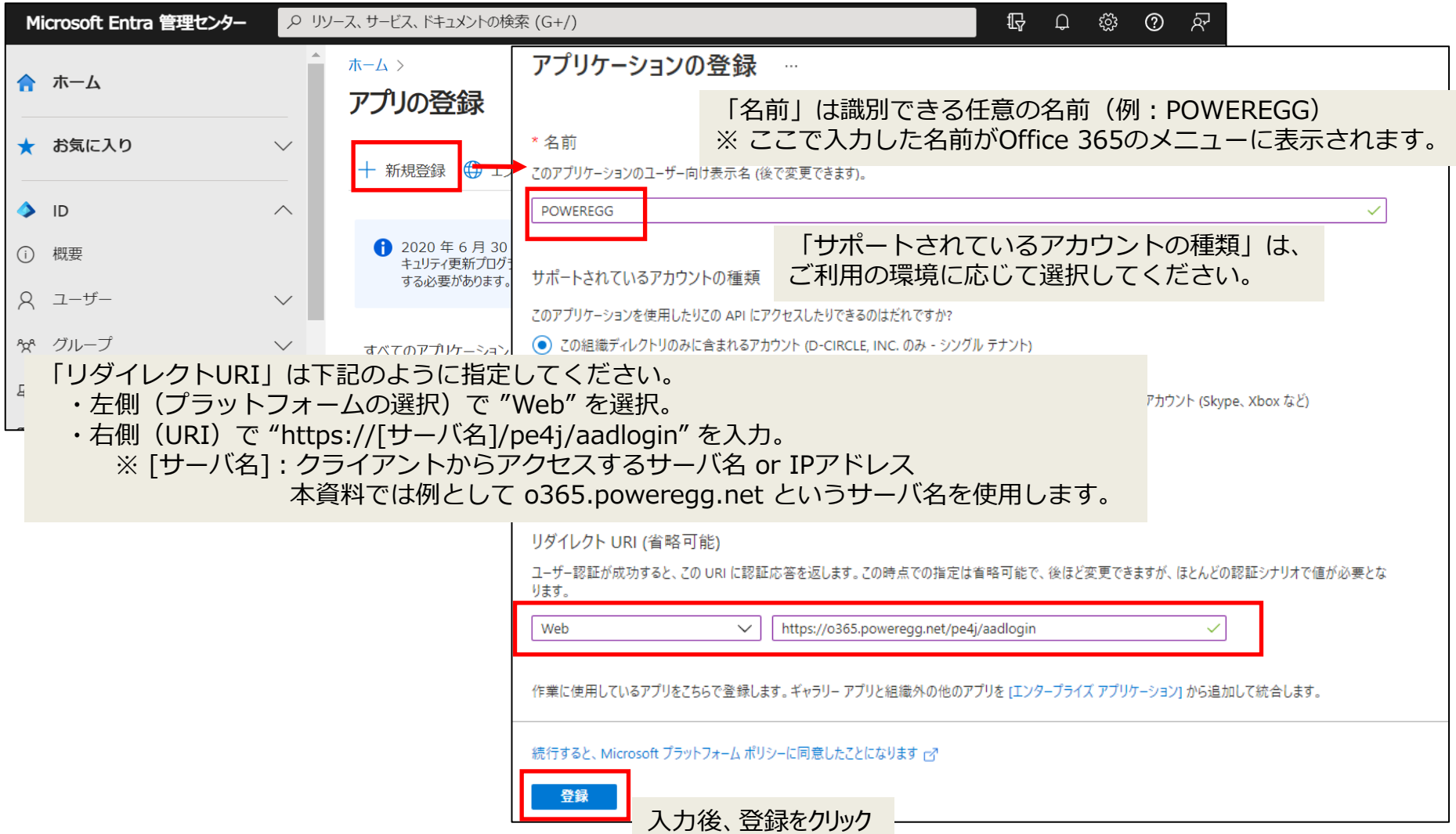


D-CIRCLE

Azure ADへのPOWER EGGの登録

POWER EGG 3.0

「アプリの登録」で「新規登録」を押し、アプリケーションの登録を行います。

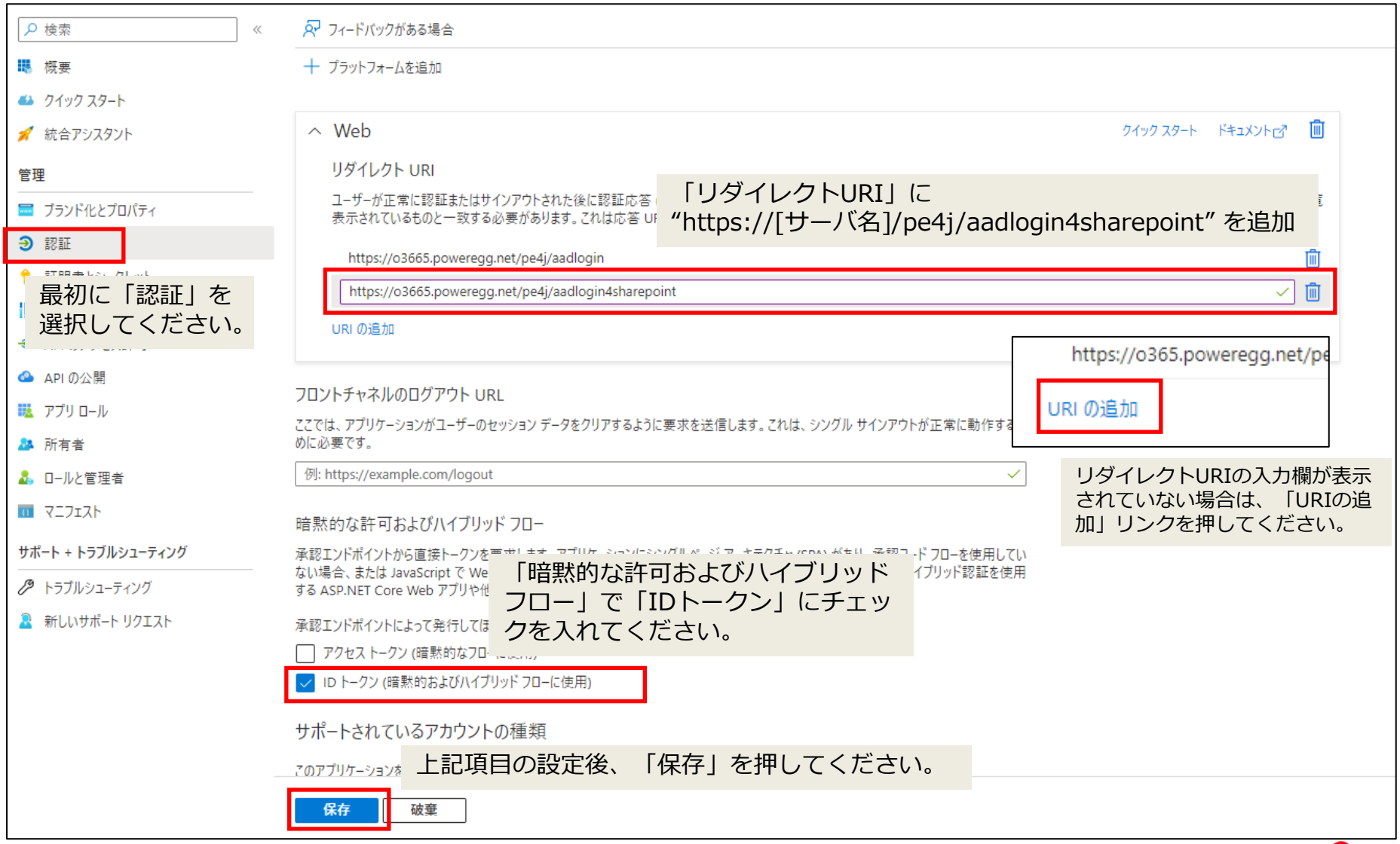


D-CIRCLE

Azure ADへのPOWER EGGの登録

POWER EGG 3.0

登録したアプリケーションの「認証」の設定を行います。



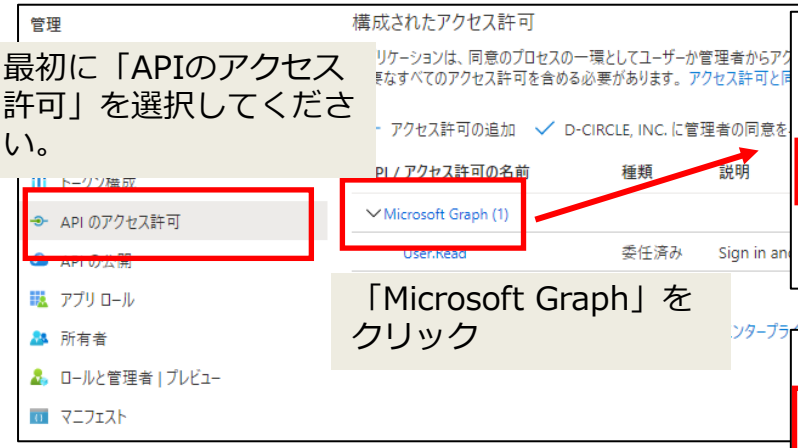
D-CIRCLE

Azure ADへのPOWER EGGの登録

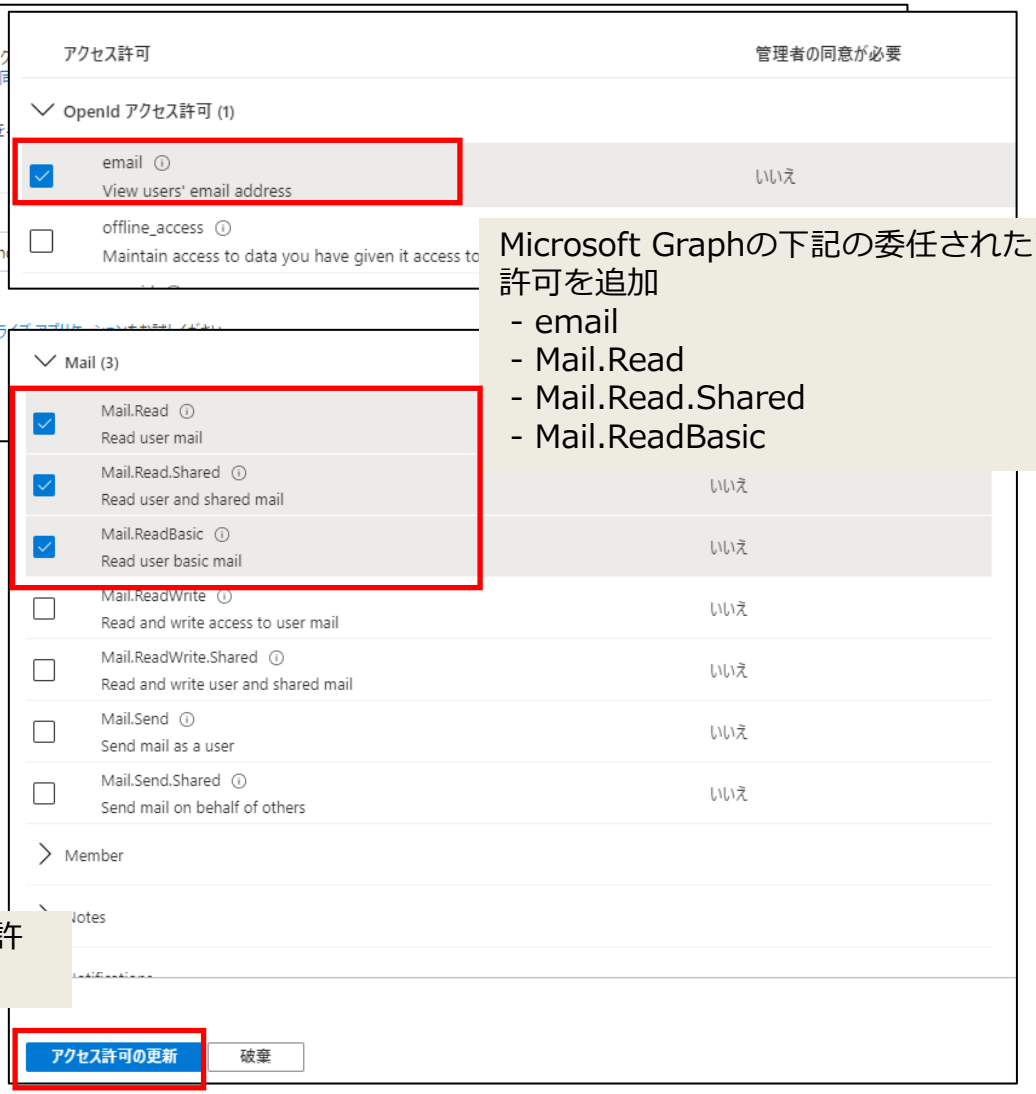
POWER EGG 3.0

アプリケーションの「APIのアクセス許可」の設定を行います。

最初に「APIのアクセス許可」を選択してください。



「Microsoft Graph」をクリック



Microsoft Graphの下記の委任されたアクセス許可を追加
- email
- Mail.Read
- Mail.Read.Shared
- Mail.ReadBasic

アクセス許可を追加後、「アクセス許可の更新」を押してください。

D-CIRCLE

Azure ADへのPOWER EGGの登録

POWER EGG 3.0

アプリケーションの「APIのアクセス許可」の設定を行います。

「Azure Active Directoryの名前(下記画像はD-CIRCLE, INC)に管理者の同意を与えます」をクリック

「はい」をクリック

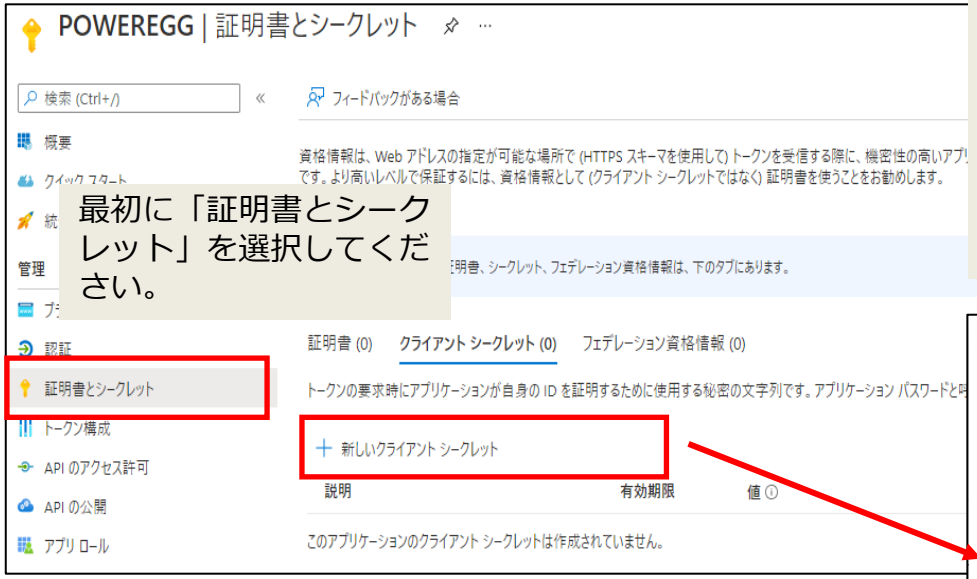
状態にチェックが付いていることを確認

D-CIRCLE

Azure ADへのPOWER EGGの登録

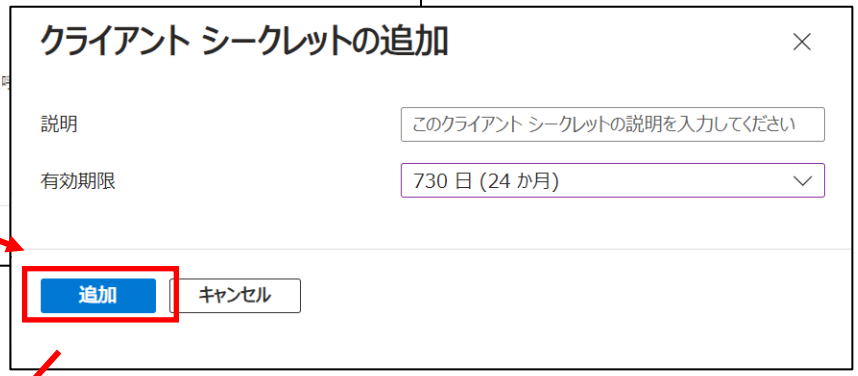
POWER EGG 3.0

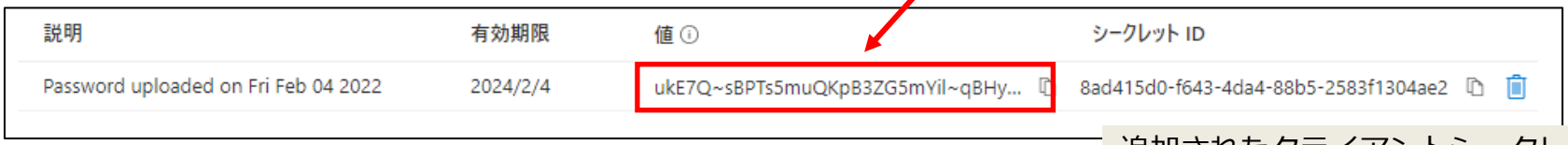
アプリケーションの「クライアントシークレット」の設定を行います。



最初に「証明書とシークレット」を選択してください。

「説明」　　：任意の説明
「有効期限」：任意の有効期限
※有効期限が切れると連携できなくなるため、最長の「730日（24か月）」を推奨します。
※有効期限が切れる前に、新しいクライアントシークレットを再作成して、POWEREGGのOffice365連携設定を更新してください。





追加されたクライアントシークレットの「値」を、テキストファイル等に保存しておいてください。
※「値」は、後から参照できなくなります。
わからなくなった場合は、クライアントシークレットを削除して再作成してください。

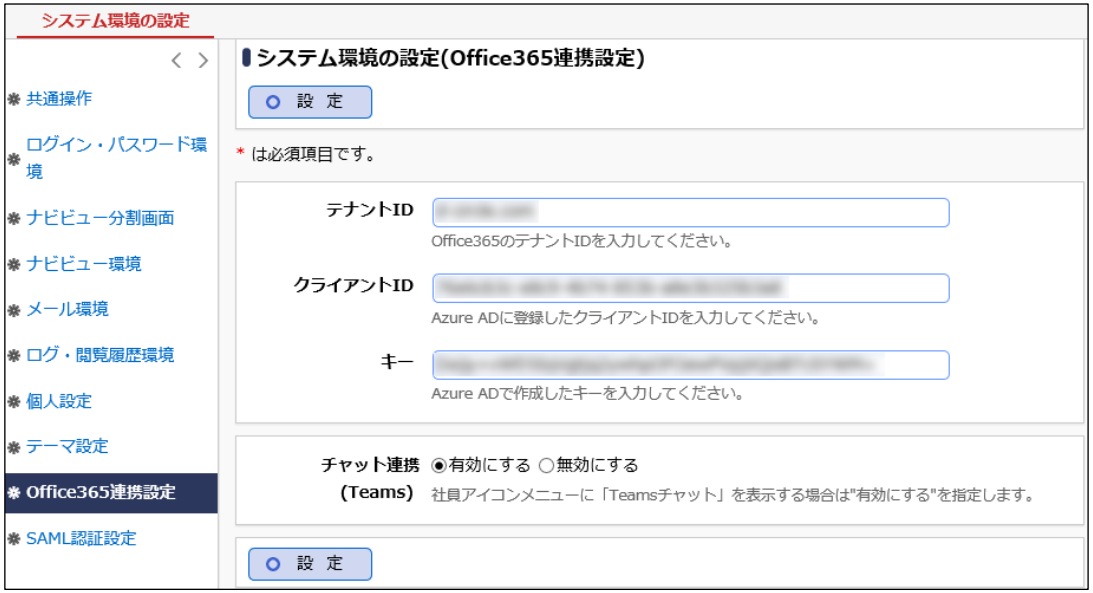
D-CIRCLE

POWER EGG側の設定

POWER EGG 3.0

POWER EGG上で、Office365連携に必要な情報を設定します。

POWER EGG[システム設定]-[システム環境の設定]-[Office365連携設定]



※ チャット連携(Teams) は、Ver3.2c以降で利用可能です。

テナントID　　：Office365のテナントID(メールアドレスの@以降の部分、ドメイン名)
クライアントID　：アプリケーション(クライアント)ID ※ アプリケーションの「概要」で確認できます。
キー　　：クライアントシークレットの「値」

チャット連携(Teams)：社員アイコンメニューからTeamsを起動する場合は、“有効にする”を指定

D-CIRCLE

POWER EGGへのシングルサインオン

POWER EGG 3.0

POWER EGGへOffice 365のアカウントでシングルサインオンする場合、下記のURLにアクセスします。

URL：　https://サーバー名/pe4j/aadlogin

※ POWER EGGへアクセスするブラウザで事前にOffice 365へサインインしていない場合、
Office 365のサインイン画面へ移動されます。
Office 365へサインインすると、POWER EGGにシングルサインオンされます。

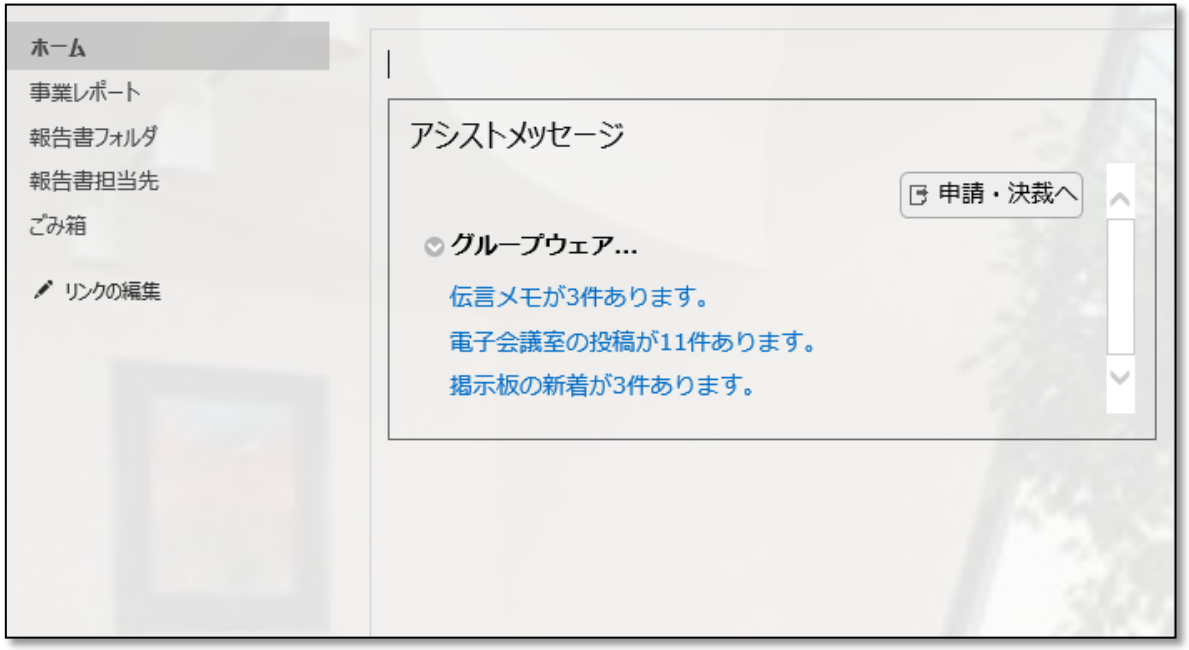
D-CIRCLE

SharePointへのアシストメッセージの表示

POWER EGG 3.0

SharePointにWebパーツとしてPOWER EGGのURLを設定します。
POWER EGGへのログインは、SSOで自動的に行われます。

設定するURL：　https://サーバー名/pe4j/aadlogin4sharepoint



SharePointポータルにアシストメッセージを表示する場合は、POWER EGGはhttpsプロトコルで
アクセスするように設定する必要があります。
（httpsでないと、ブラウザのセキュリティによりページが表示できません）

SharePointの設定方法の詳細は、別紙「モダンUIのポートレット登録方法」をご参照ください。

D-CIRCLE

SharePointへのアシストメッセージの表示

POWER EGG 3.0

SharePointポータルにアシストメッセージを表示する際、ブラウザの制限により、POWER EGG サイトへの Cookie 情報の送信が正しく行われず、正常に表示されない場合があります。
この問題を回避するため、下記の通り、POWER EGG のアプリケーションサーバで Cookie に「SameSite=None」属性を追加する設定を行ってください。
なお、POWER EGG オープンクラウド（POC）のお客様につきましては、弊社にてこの設定を行うため、SharePoint 連携を使用される場合はサポートまでご連絡ください。

・Glassfish 版の場合

1. 下記ファイルをエディタで開く
   C:¥PE4J¥Apache24¥conf¥extra¥httpd-ssl.conf
   ※C:¥PE4Jの部分は、POWEREGGのインストール先に応じて読み替えて下さい。

2. </VirtualHost>の前に下記の1行を追加
   Header edit Set-Cookie ^(.*)$ $1;SameSite=None

   （設定例）
   変更前：</VirtualHost>
   変更後：Header edit Set-Cookie ^(.*)$ $1;SameSite=None
   </VirtualHost>

3. 「POWEREGG HTTP Server」サービスを再起動

D-CIRCLE

SharePointへのアシストメッセージの表示

POWER EGG 3.0

・Interstage 版の場合

1. 下記ファイルをエディタで開く
   C:¥Interstage¥F3FMahs¥conf¥httpd.conf
   ※C:¥Interstageの部分は、Interstageのインストール先に応じて読み替えて下さい。

2. <VirtualHost *:443>セクションの </VirtualHost>の前に下記の1行を追加
   Header edit Set-Cookie ^(.*)$ $1;SameSite=None

   （設定例）
   変更前：</VirtualHost>
   変更後：Header edit Set-Cookie ^(.*)$ $1;SameSite=None
   </VirtualHost>

3. 「Interstage HTTP Server 2.4」サービスを再起動

D-CIRCLE

制限・留意事項

POWER EGG 3.0

- 下記機能は、Office 365のシングルサインオンには対応していません。（※POWER EGGに登録されているユーザーIDとパスワードでログインする必要があります）
  - ・PCリマインダー
  - ・リマインダー for iPhone
  - ・リマインダー for Android
  - ・スマートフォン版
  - ・組織図エディタ

- Ofiice 365連携を行うには、POWER EGG へ HTTPS でアクセスできるよう設定する必要があります。

- Office 365連携を行うには、POWER EGG の Web サーバが以下のネットワーク要件を満たしている必要があります。
  - ・HTTPS プロトコルにてインターネットにアクセスできること
  - ・インターネット上の以下のホストの名前解決ができること
    graph.microsoft.com

- ログインしていない状態から、POWER EGGの特定のページにアクセスするときに表示される「ログイン画面」はOffice 365の認証連携に対応していません。

- POWER EGGナビビューのe-Mailタブには、Office 365の受信トレイの未読メールのみが表示されます。受信トレイ配下に作成したフォルダ内の未読メールは表示対象になりません。

- SAML認証連携との併用はできません。

D-CIRCLE

制限・留意事項

- リバースプロキシや負荷分散装置を使用している場合、それらから POWER EGG サーバへの通信で、下記の HTTP リクエストヘッダが設定されるようにしてください。
  - ・x-forwarded-host: クライアントからアクセスするホスト名
    ※ Apache をリバースプロキシとして使用する場合、デフォルトで設定されるため、設定不要です。
  - ・x-forwarded-proto: https
    ※ POWER EGG サーバ側でも https で動作している場合は、設定不要です。
  - ・x-forwarded-port: クライアントからアクセスするポート番号
    ※ 同じポート番号を使用している場合は、設定不要です。

設定例) Aapche をリバースプロキシとして使用している場合
httpd-ssl.conf の末尾の、</VirtualHost> の前に下記2行を追加し、Apache を再起動してください。

```
RequestHeader set x-forwarded-proto 'https‘
RequestHeader set x-forwarded-port '443'
```